

「JNTOの失われた時を求めて」座談会② 未完稿

参加者：佐久間健治、川井仁史、永見正敏、北出明、長岡孝、石井昭夫（進行）

石井 第1回はJNTO 最古参の先輩諸氏にお集まりいただいて、入社直後からオリンピック東京大会（1964年）くらいまでの思い出話をお伺いしました。今日はそのあと、大体大阪万国博を経てPATA 東京総会開催くらいまでの時期の出来事を中心にお話しいただきたいと思います。もっとも、時期にこだわらず、思いついたことを何でもお話くだされば、適宜編集し、必要に応じて別の場所で使わせて頂きます。

この時期のJNTOに関連する大きなトピックスは、コンベンション・ビューロー室の設置（1966年）、EATA（東アジア観光協会）の設立（1966年）とその事務局の引き受け、国際観光年行事とIUOTO 総会の開催（1967年）、ASTA 総会と世界観光会議開催（1969年）、大阪万博（1970年）、PATA 東京総会（1973年）と、日本ないしJNTO が世界の観光舞台に華々しく登場した時代でした。

オリンピック大会を成功裏にホストして以来、国際社会に迎え入れられ、日本全体の国際化が急速に進んだ時期でもあり、日本で開催される国際会議も非常に増えました。

国際観光機関関連業務の話しに入る前に佐久間さんがJNTOに入社された経緯について伺いたいと思います。

人員強化のための中途採用者

石井 昭和38年はオリンピック目前だったし、事業の急速な拡大が見込まれ、海外事務所の増設も急ピッチだったから、即戦力になる中途採用者がかなり入社されました。その一人が佐久間さんですが、どのような経緯でJNTOに入社されたのですか。

佐久間 税関勤務を辞めてから4年くらい小学校の事務の仕事をしていた。JNTO には昭和38年9月に入社した。一緒に入ったのが黒須さん。中途採用では木村佳男さん、竹之下さん、泉さん、利根山さんたちがいたけど、彼らは同じ年の4月に入っていたんじゃないかな。僕は学校の関係で4月に間に合わず、夏休みのあとでということになった。

石井 JNTO のことはまだあまり知られていなかったと思うんですけど、どういう風にして見つけたんですか。

佐久間 これからの日本は貿易で栄えて行くんだという意識はあり、その関連で観光も輸出産業と同じだという意識は持っていたけど、JNTO のことをどうして知ったかよくわからないんだ。入社してすぐ、研修なんか何も受けずにいきなり東京TICに応援勤務させられたな。だからオリンピックの時は東京TIC勤務だった。

北出 僕が入社した昭和41（1966）年4月には、羽田TICの所長でいらっしゃいました。労働組合を結成した1967年までは羽田でしたけど、羽田に行かれたのはいつだったんですか。

佐久間 よく覚えていないなあ。オリンピックが終わってすぐだったのかな。いや、オフィシャルガイドの編集というか校正を手伝わされたから、そのあとだね。松本先生と塩ち

ちゃんとひたすら校正をやらされた。校正校正で、少なくとも 10 回は読んでるね。

永見 一緒にやりましたよ。最後の頃には沼津の図書印刷の工場に出張校正に行き、寮に泊まり込んで何日も校正をやったことがあったでしょう。あれ楽しかった。酒は飲み放題だったし。

佐久間 そうだそうだ。刷り上がってくるのを次から次にやらなくちゃいけないからほんとに大変だった。塩沢君と一緒にいるとき、最初は飯が少ないなあなんて文句言ってたけど、座って校正ばかりしているから 3 日目くらいには食欲がなくなって、同じ量でも多く感じるようになってしまった。

長岡 佐久間さんが校正なんかをしこしこやっているというのはイメージと違うなあ。

石井 オフィシャルガイドというのは大変な労作ですよね。なにせ政府が責任監修でガイドブックを作るんだから。自分で現物を持っているはずだと探したんだけど見つからなかった。JTB の旅の図書館に各版がありますね。

永見 製本された後になって、小見出しのゴシックで Beppu が Bappu になっているのに気がついて大騒ぎになった。あれ結局どうしたんだったかなあ。

石井 たしか、最初に一般編と地方編の 2 分冊が出たような気がします。何か関係があったのかな。

川井 オフィシャルガイドは小谷ビルの 3 階で編集作業をしていたんですよね。

永見 そうです。佐久間さんもおられました。僕は利根山さんとトラベル・ブレイクを作りながらだった。

川井 藤野さんとか古林さんがおられた。それに朝日イブニングニュースのダンバーさんという外国人が英文校閲のために時々来ていた。それと小板橋さん。小野口さんが英文タイプを打っていた。

永見 テレックスを打ってもらっていたなあ。テープに穴をあけて機械でがしがしゃ流すやつ。あれを小野口さんが打っていたのを覚えています。

川井 事務所では自分で打っていたよ。

長岡 僕が NYC にいた時もまだテレックスで、もちろん自分で打っていた。

石井 この前の座談会でコピー取りの話が出たけど、通信といえばまだ外国に電話なんか簡単にかけられなかったから、上の人や先輩に言われてしょっちゅう東京駅の KDD 行って事務所あての国際電報を打ちに行かされた。短いのは電話で国際電報を打ったね。アメリカの A とか、スペインの S とかって、覚えたり自分で考えたりして…。

長岡 いろんな言い方があったね。エアラインだと違う言い方をした。

北出 フラン語だと人の名前も使ったし分かればいいんだと勝手に作ってやりました。

石井 ちょっと戻ります。羽田 TIC (1963 年 11 月開設) の初代所長は酒井常太郎さんで、吉沢さんと二人体制だった。羽田は東京都と同じスペースに同居していて、都が 3 分の 2、JNTO が 3 分の 1 だった。堀木副会長が就任後順次外国事務所の視察をなさったとき、ヨーロッパには僕が随行しました。昭和 40 (1965 年) 11 月でした。本当は羽田 TIC の酒井所長が行かれるはずだったのに、病気になられて、ぎりぎりまで待って出発 10 日前という時期に、突然村田理事に呼ばれて随行を命じられた。理事室に来いと言われた時、なんかまずいことをしたかなあと心配しながら出向いたら、酒井さんが行かれなくなったから、

10 日後出発予定の堀木副会長について行けて。びっくりしたけど、喜んでお供させていただきますって言った。で、パスポートもビザも外貨も、10 日間で手品みたいに全部用意されて出発したんですけど、その当日に酒井さんが亡くなった。それを聞かれて堀木副会長がじっと瞑目されていたのを覚えています。酒井さんの後任に佐久間さんが行かれたのだと思います。

副会長の随行は羨ましがられたというより、同情の目で見られましたね。怖い人だということになっていたから。でも堀木さんは優しかったし、立派な人でしたね。

佐久間 そういえば、堀木副会長と石井君がヨーロッパから帰国した際、羽田で迎えた記憶がある。

北出 IUOTO 総会の時は羽田に居られました。VIP のデレゲートが到着する時には、佐久間所長が出迎えてお世話をされて、そのことを間島理事が何かの席で言及され、感謝されていたのを覚えています。

永見 労働組合結成の時は羽田から足を運んでおられました。

佐久間 労働組合は隠密裏に準備して、IUOTO 総会が終わってぱっと旗揚げした。本当は総会前のほうが忙しい時期だからクビにされる心配が少ないと思ったけど間に合わず、総会後になってしまった。

石井 IUOTO の前に旗揚げだって言っていらっしゃいましたね。ですが、僕は3週間堀木副会長とべったり一緒に旅をして、JNTO のことなどフランクにおしゃべりできたので、そのうち労働組合をつくりますけど反対しないでくださいって言ったんです。そしたら堀木さんは、そうか、いいだろう、俺は参議院の労働委員会の委員長やったことがある、組合はあって当然と言われた。だからクビの心配はしませんでした。

佐久間 作った直後に香港事務所への赴任を打診された。さすがにそれは組合つぶしだといって断ったんだ。それで竹之下さんが香港に行った。そしたら年度が替わって委員長に再任された途端に、今度はダラス事務所長の内命が来た。といっても、それまでダラス事務所は独立した事務所だったのに、ニューヨーク事務所の分室扱いになり、所長と所員の2名体制だったのを1人でやれと言われた。

永見 再任されたばかりの委員長を海外事務所に赴任させるなんて不当労働行為だって騒ぎましたね。

石井 佐久間さんは断ってもいいと言われたけど、せっかくの海外赴任の機会をつぶすわけにはいかないということで、仕方なく僕が委員長を継ぐことになった。当局も組合を弱体化しようなんて意図はなかったしね。初代書記長だった塩沢君はその前にサンパウロに赴任したから、川井さんが副委員長、小方君が書記長をやってくれた。

永見 僕が石井さんの後を継いだから、初代、二代、三代の労組委員長が揃いましたね。労働組合のことは滝沢君の時の「設立15周年」、石橋君のときの「25周年」に記念誌が作られていて、結成のいきさつからその後の展開まで書いてあって歴史がよくわかります。

国際観光機関関連の業務

川井 僕が入った頃には、IUOTO（官設観光機関国際同盟）、PATA（太平洋地域観光協会）、ASTA（米国旅行業者協会）などとの連絡業務があった。まだペーパーだったから詳しいこ

とはわからなかったけど、理事・部長クラスが活発に動いていて、渡辺幸雄さんたちとあれこれ手伝われた。IUOTO は2年に1回総会があって、その会議録を観光局業務課国際係の海谷さんとか池田さんらと下田の海上保安庁の寮に缶詰にされて翻訳したことがあるよね。

石井 僕も行きました。あれはすごく勉強になりました。稲場さんが腹痛を訴えられて医者に見てもらったら、盲腸だといわれて吃驚してタクシーで駅まで送った記憶があります。それから、世界の観光史でも特筆される「国連主催国際旅行・観光会議（観光ローマ会議）」が1963年8～9月に開かれて、梶本局長が主席代表、JNTOからは間島理事とロンドン事務所から渡辺幸雄さんが参加されています。この会議の記録も翻訳を手伝わされました。でも、これは川井さんがNYCに赴任された後だから、川井さんと一緒の時ではないということですね。

川井 もうひとつ記憶に残っているのは、PATAがアメリカ政府の予算で太平洋地域の観光事情の大きな現状調査を行って、1961年に大部の報告書を出したことです。その翻訳も手伝われた。いわゆるチェッキレポートというやつで、（特）日本観光協会刊行の「太平洋・極東地域における観光事業の将来」というのがそれです。

石井 あの本は私たちが入社した昭和37年8月の刊行で、安居院国際部長に是非読めと言われました。読んでみると凄い本で、国際観光事業って将来性豊かというか、面白そうな分野なんだということを実感した最初でしたね。

川井 PATAの日本支部が設立されたのが昭和38（1963）年2月で、支部長に梶本観光局長が就任された。ホテルやインバウンド旅行業の人達が会員になって、彼らのために支部主催のセミナーをやるようになっていくんだよね。今年の2月16日に日本支部設立55周年記念パーティが開かれ、佐久間さんと石井君と僕の3人が出席した。懐かしい顔が揃っていたね。

EATA 事務局と支部

川井 オリンピックの後になるコンベンション・ビューローの設立とEATA（東アジア観光協協会）の設立はニューヨーク事務所で知った。僕は佐久間さんからEATAの事務総長を引継いだんだけど、初代事務総長は誰だったのかな。

石井 日本は戦前から東アジアの盟主のつもりだったから、昭和10年に東京で東洋観光会議というのを開いています。2年ごとに会議を開催することを決めて、昭和12年に香港で第2回を開催する予定だったけど、日中戦争が始まって中止になり、結局昭和14年に京都で開かれています。戦争が迫ってきてこれで打ち止めになったのですが、戦後にこの構想が復活したということのようです。

昭和41年3月に東アジア観光会議が東京で開催され、この会議でEATAの設立が決まりました。記録によると、設立総会で初代会長に堀木副会長、初代事務局長に北田事業部長が選出されています。北田さんはバンコック事務所から帰任されてすぐ担当になられ、矢吹君が設立のための膨大な英語資料作りをやらされて大変だったと言っていました。

北出 設立総会は帝国ホテルでやりましたね。浜野さんが堀木さんの挨拶の通訳をやっておられた。

永見 二代目が泉勇治さんで、三代目が佐久間さんじゃないですか。そのあとを川井さんが継がれた。多分その次が黒須さんも結構長くやられました。

長岡 ぼくも EATA の資料作りは手伝わされたけど、あの頃は原紙にタイプで打って手回しの輪転機で印刷したから、資料作りが大変だった。

佐久間 そうだよ。会議室にテーブルを並べて何十ページ分ものペーパーを並べてぐるぐる回って 1 枚ずつ揃えて閉じるんだ。靴なんか履いていると足が蒸れるし摺れるから裸足になってやった。

永見 矢吹さんが輪転機を調子よく回しているから、先輩上手ですねっていったら、バックヤローって怒鳴られた（笑）。

長岡 矢吹さんが輪転機回しですか、想像しにくいなあ。

石井 EATA は年次総会のほかに理事会やマーケティング委員会が数回あり、加盟国が回り持ちで開催していたのですね。それからアメリカとヨーロッパには支部（チャプター）が出来ています。僕はコンベンション・ビューローで日本支部事務局のためのコンサルティングをやるようになって、JNTO は、小なりといえども国際機関の事務局を内部に持っていて、国内はもちろん会員国での総会に事務局として出かけていくし、PATA や ASTA などへの参加でデレゲートとしての経験もできるから、国際会議のベテランぞろいで、仕事に自信が持てましたね。

川井 ニューヨークの支部はいつできたのかな。僕が最初に NYC にいた時はまだなかった。

佐久間 僕がダラスの所長していた時（在勤 1968～72）じゃないかな。

石井 「国際観光振興会 20 年のあゆみ」をざっと調べたんですけど、支部がいつできたかは書いていないようです。それらしいのは、1971 年の項に、EATA 第 5 回総会が開かれ、7 カ国の共同宣伝体制が順調に発展していること、欧州と北米西海岸で共同セミナーを開催し、大きな成功をおさめたことが報告された、と書いてあります。これが成功だったので 1971/72 年度の予算からセミナー等共同事業費の新予算 5 万 8,000 ドルが計上されたとあります。そして新たに米東海岸で行う共同宣伝事業の議長に JNTO ニューヨーク事務所長が選ばれたと書かれています。この時期に出来たのかもしれないけど、まだ支部という言葉は出てきていません。

次に出てくるのは 1979 年で、第 15 回総会で「支部」の事業報告と事業予算が審議され、欧州支部の設置が決定した、と書いてあります。

長岡 僕がニューヨークに赴任した時（在勤 1975～79）にすでに支部はあって、日本の分と 7 カ国のうち事務所のない 2 カ国分は僕が替わってプレゼンテーションをしていました。

永見 そういえば、4 人が NYC 勤務経験者だね。北出さんも NYC 分室のダラスにいたから同じようなもんです。石井さんだけが違う。

石井 僕は 1971～74 年にパリ事務所にいたけど、まだ EATA の国の観光事務所は一つもなく、香港が PR エージェントにレップを委託しているだけだった。この人が EATA のレップも兼ねる形でセミナーなどを一緒にやりました。7 か国紹介パンフレットがあって、それを配って 7 カ国の説明をざっとする程度でしたね。宣伝映画が出来たのはいつだったかな。

佐久間 映画は僕の時に作った。7 か国あったから全体で 30 分程度を 7 等分しなくちゃい

けない。順番をどうするか、どこの映画会社に委託するかなど、結構調整が大変だった。

石井 何回か作ったのですよね。1972年にはシンガポールが加盟して8カ国になりましたし。

川井 何年かに1本つくった。僕の時にはシュータグチ・プロに委託して、河合さんに世話になった。日本のパートは沖縄を採り上げてもらうことにして、山川君といっしょに行ってシーサーとかを撮ってもらったのを覚えている。

佐久間 僕が事務総長の時、中国との国交が回復して大陸中国が国連に加盟し、台湾が脱退した。あの時ITBに参加するのに、そもそも台湾を参加させていいのかななどと言われ、こちらはメンバーの台湾を守る立場だったから調整に苦労した。出展はしてもいいがRepublic of Chinaは使っちゃ困るとか…。

長岡 結局中国はEATAに入らなかったから、いびつではありましたね。

石井 中国はずっと後まで自由に観光旅行が出来ない状態が続いたから。

佐久間 ひとつ思い出すのはロンドンのPRマネジャーを委託していた男(名前が出てこない)を首にしたことだね。こちらもいろいろ経験してわかってくる。JNTOの代表としても催し物なんかに参加する。そうするとPR契約を結ぶように話を持ちかけてくるんだ。あちこちの国に同じような話を持ち込んで契約してもらい、同じ中味を少しだけ変えて報告して、各国から金を受け取っていることが分かったんだ。それで思切って首を切った。

永見 僕は事務局はやらなかったけど、イーストコーストとウェストコーストの両方のチャプターで事業を担当した。

長岡 佐藤哲哉さんが事務総長を長くやっていましたよね。黒須さんも長かった。

佐久間 僕は1年だったか短い間だけど、つなぎでもう1回事務総長をやった記憶がある。佐藤哲哉君の前じゃなかったかな。

川井 黒須さんは僕の後です。僕と一緒にやっていたのが山川君、佐藤博康君。それと、EATAとして雇っていた職員に大熊さんという女性がいた。福田ユキコさんという人もいて、この人は結構人気があった。

北出 大熊さんは知らないけど福田さんは知っています。テニスも上手だった。そのあと小林さん、神田さんなんかもいました。

佐久間 僕は田中一郎君と一緒にやったけど、僕がEATAの事務総長が務まったのは彼のおかげだよ。日本語でどんどん書けば右から左に立派な英語にしてくれたから助かった。

石井 僕も彼の英語力には助けられた。パリから戻ってTourism in Japanを情報管理部で作ることになった。それまで編集部で作っていたのは実績の数字を入れ替えるだけの形式的なものだったので、観光白書を下敷きにして国際向けの英文観光白書をつくろうと頑張った。僕が日本語で書くと、原稿が間に合わないくらいにどんどん英語にしてくれた。結構外人研修などで役に立って褒められたけど、二人の合作でした。

川井 EATAはずっとITBベルリンに出ていたよね。

石井 そうですね。EATAとしていろいろな観光イベントにまともって出ましたね。ITBやWTMは欠かせなかったと思います。一方、スイスのような小さいマーケットでは、そもそもJNTOしか事務所がなかったから、補う意味なのかEATAとして何度か観光のイベントに参加しました。本国から観光局長クラスの人が来たこともありましたね。メキシコ

では COTAL への参加だったか、上村君が所長の時にお邪魔した記憶があります。

川井 EATA は東アジアの共同観光宣伝ということで結構盛んだったけど、日本がアウトバウンド市場として大きく成長すると、他の国にとっては対日観光宣伝が大きな関心事になってくる。これには日本側は対応できなくて、少しずつおかしくなった。

佐久間 EATA や JNTO では日本のアウトバウンド促進はできなかったけど、PATA の枠内ではやれた。PATA にはそれぞれの国のアウトバウンドとインバウンドの業界が一緒に入っているからアウトバウンドもできた。結構大がかりにやったよね。日本航空と加盟国のキャリアと組んで航空券を出してもらい、加盟国の NTO が滞在費を負担する形で、日本のトップクラスのジャーナリストを送り込んだ。朝日、読売、毎日、東京などの各紙に声掛け、後で記事を書いてもらうという条件で行ってもらった。さらに帰国後はアウトバウンドセミナーに参加してもらうというのがセットだった。東京、大阪、名古屋でやった。この形で金は全然かけずに 10 数回やった。事務局から必ず一人は参加してもらったね。加盟国にも日本のアウトバウンド業界にも評判がよかった。

長岡 僕はボルネオに行った。リーガロイヤルがやっているリゾートホテルがあって、そこに泊った。船でなくては行けないところで、ジャンボ機が 20 何機入るといふ凄い洞窟があるところだった。世界遺産になっているミリというところ。何千だか何万だか無数の蝙蝠がいて、蝙蝠の糞が臭いに辟易した。メディアの人達と行ったんだけど、朝日だけは駄目だと言われた。理由は森林破壊で批判的な記事を書いたからということだった。

PATA の活動

永見 僕もマレーシアの時に EATA 事務局として行きました。PATA 総会がマレーシアであつたとき花火を打ち上げたんですよ。50 分間花火を打ち上げるという凄い計画だった。

佐久間 うん。あれは大変だった。花火は船舶振興会が必ず記事を書くという約束で提供してくれた。だけど船会社が花火なんか乗せたがらなかった。爆発物だから周囲を何メートルだかスペースを開けなくちゃならないし、運んだって儲からないから。で、運輸省に頼んで船を見つけてもらってシンガポールまで行った。ここで積み替えて陸上をクアラルンプールに運ぶはずだったんだけど港に入れてくれなかった。EATA の縁で観光局に頼んで海上で積み替えて陸揚げした。マレーシアに入ると軍が運んでくれた。そんな大量の花火なんか普通の運送会社じゃ無理だったんだ。

永見 花火師のおじさんたちを僕がクアラルンプールで面倒見ましたよ。

石井 なんで花火なんかを打ち上げたんですか。

永見 翌年が京都・大阪総会だったから、ジャパンナイトをやり、その景気づけだった。

佐久間 あれは僕が PATA 日本支部長だったときだ。よくあんな事やったね、しかも金は全然使わないで。船舶振興会は記事が載せることが条件だっていうから、現地でジャーナリストたちと交渉して書いてもらい、ちゃんとまとめて報告書をつくった。

川井 田代理事の時だったはずですよ。僕がシドニー所長だった時で、理屈をつけて JNTO のデレゲートとして行った。駐マレーシア日本大使を知っていたんで代表団を大使公邸に招いてくれた。田代理事は参加されたけど佐久間さんは来なかった。

佐久間 忙しくてそれどころじゃなかったと思う。

永見 クアラルンプールのジャパンナイトでは日本舞踊の三浦布美子の一座を呼んで、大利根月夜なんかを歌わせたら、マレーシア大使が感動で涙を浮かべられた。

佐久間 PATA の枠内で EATA が活動できたのは大変良かった。PATA を担当するようになって、業界の人とのつながりが非常に密になったね。

永見 旅行業界だけでなく、東邦生命の社長さんが PATA に関心をもって、国際的な人を育てたいから JNTO や関係機関に人を派遣するという事にまでなった。

北出 奥さんが最初ですね。それから何代か続きました。

佐久間 PATA 総会の来賓に皇室（三笠宮）に来ていただく交渉はホテルオークラの橋本さんがつないでくれたほか、様々な局面で業界の協力が得られた。ジェットツアーの菅原さんが何かの表彰を受けるので ITB ベルリンに行かなくちゃいけないんだけど、ホテルが全然取れない。なんとかならないかと頼まれて、塩沢さんが担当していたから、1 室何とかかしてくれと頼みこんで取ってもらって大変喜ばれた。

北出 ジェットツアーができないことをやってあげたわけですね。

佐久間 JNTO の株も上がって、ホテルの御三家の JNTO への賛助金が 5 万円ぽっきりだということから、100 万円に増額してくれと申し入れたら、100 万円だと役員会マターになるから 50 万円かどうかということで各社 50 万円に増やしてもらった。

長岡 御三家プラスパレスホテルの賛助金が 50 万円になったのは覚えています。

永見 当時 PATA と佐久間さんがいかに結びつきが強かったかというエピソードだけど、大阪総会の時、梶本会長がパーティの席で、PATA は佐久間さんのものではございません、皆様のものではございますって挨拶されたのを覚えています。

長岡 どういう意味？

北出 佐久間さんがミスター PATA になっていたということでしょう。

佐久間 そういえば担当理事にも言われたね。佐久間君、PATA は君と会長だけでやっているんじゃないぞってね。出しゃばっていたのかな。

川井 アジアからのアウトバウンドが活発になって、各地域にリージョナルオフィスを置くことになり、東アジア地域事務所はシンガポールにできて、僕が赴任した。

北出 JAL の人で川井さんのカウンターパートに当たる人がおられましたね。

川井 加藤さんです。加藤さんには個人的にもずいぶん世話になった。その前が松村さんかな。ジェットツアーの菅原さん、トラジャルの森谷さんなんかも熱心だった。

長岡 PATA を担当していた JAL の人は個性的な人が多かったですね、加藤さんにしても小林さんにしても。加藤さんの後が野村さん。近藤さんという人もおられた。僕が日本支部の事務局長していた時、新井理事のときだけど、JNTO は PATA を脱退するという話になった。いろいろ議論したんだけど結局退会して、今は日本支部限りのメンバーですね。

石井 PATA は他に類を見ない国際観光組織だと思います。官も民もインバウンドもアウトバウンドも、デベロッパーや金融機関まで動員できる組織です。PATA について賞賛の論文を書き、最後のところに JNTO が脱退するのは忘恩の思いがするって書きました。ところで EATA のほうはいつまで存在したんですって。

永見 Asia Tourism Marketing Association (ATMA) に形を変えて数年存続したけど、2002 年に解散しました。僕が理事の時だったと思う。

長岡 解散したとき、ぼくはシカゴ事務所にいた。余ったお金を使ってくれと送られてきたのを記憶しています。

コンベンション・ビューロー

北出 1967年にIUOTOの総会、1969年にASTAの総会、1973年にPATAの総会をやったんですね。

長岡 参加者数はそれぞれどれくらいだったの。

北出 IUOTOが250人くらい、ASTAは公称3,500人、PATAは1800人くらいだったのですかね。

長岡 立て続けによくやったよね。

石井 では、コンベンションに話しを移しましょうか。

北出 僕は41(1966)年に入社して、出来たばかりのコンベンション・ビューロー室に配属されました。JNTOのコンベンション室になる前に、日本コンベンション・ビューローという任意団体があって、これがJNTOに吸収された。石井さんがこの任意団体の設立事務を担当されたんですね。

石井 オリンピックが終わって、事業部の八幡得一郎さんの島に配属になって、事務所管理の仕事をやっていたら、日本コンベンション・ビューロー設立事務を命ずってという辞令をもらった。その時はコンベンションって何ですかという感じでした。コンベンション・ビューローは昭和31年に「観光事業5か年計画」というのが出来て、その中にTICとともにコンベンション・ビューローの設立も将来計画として入っていたんです。その時の簡単な説明用資料を渡されて、JNTOが中心になって作るんだからしっかりやれって送り出された。JTB本社ビル5階の財団JTBの小さい部屋に、JTBの栗原孟男さんを長とし、日本航空から柴田実さん、JNTOから僕が派遣されて設立事務をやりました。自慢話になってしまうんだけど、設立趣意書から事業計画、予算積算など全部一人でやりました。JALの柴田さんはIATAなどの国際会議の経験が豊富だったので、国際会議の開き方をまとめる仕事をしてもらいました。最初のうち設立事務の必要経費は財団JTBが持つことになっていたらしく、紙や鉛筆などの文房具を買うのも、どこかへ出かける交通費も、コピー取りもいちいち財団JTBの承認をもらったり、支払い手続きしないといけない。で、ここにいたのでは仕事にならないからJNTOで仕事するって言ったら、当時の観光局有田輝彦業務課長が分かってくれて、JNTO、JAL、JNTOがそれぞれ10万円だったかな準備経費を出すと決めてくれて、これを自由に使わせてもらいました。この時の観光局の準備事務のカウンターパートだったのが入省されたばかりの向山秀昭さんだった。全部JNTO方式でやったから、書類作りや予算積算など、和田耕一君にずいぶん助けてもらいました。

北出 それから小谷ビルに移転したのですね。

石井 記録がないのでいつ小谷ビルに行ったのかわからないけど、JTBにいたのはほんの少しの間だったと思う。小谷ビル2階の観光ライブラリーの閲覧スペースに机を配置して準備事務室をつくった。その時にJTBから瀬崎さんという経理の人とこの北出夫人(旧姓田畑さん)が加わりました。1965年6月22日に帝国ホテルで設立総会をやり、日経や朝日などの一般紙にも結構大きく取り上げられました。そしたら次の日からジャンジャン

電話がかかってきた。日本でどんな国際会議が開催されるか、その事務局はどこか、といった問い合わせが来るようになった。すごく世の関心が高かったですね。銀行からは預金はわが行でという売込みが沢山あった。

北出 国際会議一覧表なんかはもう作っていたんですか。

石井 簡単なのは観光局ですでに作っておられ、それを引継いだって感じですね。多分僕が入社した昭和 37（1962）年には、日本入港の客船リストと日本で開かれる国際会議一覧表はあったようです。船のほうは飛行機の時代になって客船が一覧表を作るほど来なくなり、国際会議一覧表は今後そっちで作れって JNTO に移管された。一覧表といっても当時はまだ一枚ペラくらいのものであったので、コンベンションを担当するようになってから、上野の日本学術会議に行って情報をもらったり、航空会社や主要ホテルを取材して教えてもらい、どこに事務局があるか確かめて情報を入手しました。顔は覚えているけど名前は出てきませんが、日本学術会議の広報担当の人、ルフトハンザ航空の亀山さん、東京ヒルトンホテルの営業の人など、関心を示して親切にしてくれた人のことは今でもはっきり覚えています。JAL や日本のホテルは教えてくれなかったですね。あのリストはコンベンション・ビューローの売り物でしたから一生懸命やりました。

北出 僕が入社した昭和 41 年に JNTO が吸収してコンベンション・ビューロー室が設置されました。入った当時のスタッフは担当理事が福永さん、室長が大迫さん、課長格が西川さん、主任格が石井さん。その下に僕が入り、JAL から岩井久美恵さん、JTB から高橋茂さん、近ツーから勝又直人さん、阪急交通社から小川さんと賑やかだった。

永見 北出夫人も一緒だったわけですね。

石井 あの当時日本での国際会議は、誘致もさりながら、国際機関のほうに日本開催の希望が結構あった。国際機関の日本支部に接触してみると、オリンピックが成功し、そろそろ日本でやらないかと言われるような状況になっていることが分かってきたんです。むしろ日本側がひるんでいる。何が問題かというところ、国際会議ってどうすればいいんだ、準備から開催まで時には何年もかかる国際会議を英語なり外国語でやりとりする自信がない、お金がかかるけど支部にはない、人もいない、などなどだった。これらの対策を考える必要がありました。

北出 翌年 1967 年の IUOTO 総会の準備が始まっていたから、初年兵でもいろいろなことをやらされました。石井さんの下のプロパーは僕だけで、部内の予算差引などの庶務的事項を任されました。

石井 IUOTO の準備をする一方で、誘致宣伝のパンフレットや施設・サービスのリスト、映画やスライドの作成までやりました。IUOTO では僕は開会式とレセプション担当だった。勝又君が会議内容というか、IUOTO 事務局との連絡担当、岩井さんがレディースプロ、高橋さんが輸送とか旅行とかの担当だった。

北出 僕は ITY 事業の一つだった同時通訳養成講座を担当しました。（北出君ここを少し書いてください）

石井 次の年に入ってきた初年兵の高寺君が登録担当になり、彼の頑張りにはびっくりしました。みんな東京プリンスに泊りこんで、職員の食堂で食べさせてもらっていました。開会式は出来たばかりの国立劇場でやったんだけど、今思えば「めくら蛇におじず」でし

た。学芸会の要領で、舞台袖の内線電話を通信手段にしてあちこちに人を配置して指令を飛ばしました。皇太子殿下ご夫妻が主賓で、IUOTO のオーロー会長以下の VIP、佐藤総理大臣、大橋運輸大臣、足立正日商会頭といった大物を舞台に上げるのに、中村徹さんに上階の待合室に待機してもらって、僕が秒読みして「今出してください」と伝えたわけです。みなでお喋りしながら三々五々降りて来られるのかと思ったら、一列縦隊でドッドッドと舞台に上がってこられて吃驚した。何度も自分で歩いて時間を計り、琴の演奏が終わってすぐ後くらいに登場してもらおうプログラムだったのに、早過ぎて演奏の最中に入ってきて皆さん着席されてしまった。予定が狂ったけどどうしようもない。皆さん静かに琴の演奏をお聞きになっていらっしゃった。あとで聞いたら、あの演出はよかったと言われたし、琴の人たちには美智子妃に聴いて頂けたとお喜びで結果オーライだった。

だけどこれに懲りて ASTA 総会の開会式を担当したときには演出は専門家に依頼しましたし、コンサルティングではなるべく素人はやるな、取り返しがつかないことになりかねないと書きました。

北出 西川さんが IUOTO 総会受入の詳細な報告書をまとめられて、これがコンサルティングにとって大変利用価値のある資料になりました。

石井 それ今どこかにありますか。コンベンション担当のセクションとかに眠っているといいですね。

川井 IUOTO の受け入れ事務局はどこにあったの？ ボスはだれだったのかな。

北出 事務局はコンベンション・ビューロー内です。JNTO 側のトップは福永理事と大迫室長、西川さん。石井さんが実務のボスというところでした。運輸省のほうにメインの事務局があり、浜野さんや池田さんたち国際係の人達が担当されていました。業務課長が中島英雄さん、トップは深草観光局長でしたね。

石井 国際会議をホストしようとする事務局に対するコンサルティングをやるのに非常に有効でした。それまでもすでにやった国際会議の事務局の経験者に話を聞きにいたり、開催中の会議を傍聴させてもらったりもしました。もちろんホテルや会議場やコンベンション・サービスの人に話も聞きました。でも、やはり自分で IUOTO の事務局を体験したおかげで自信を持ってアドバイスできたし、先方も納得してくれましたね。

長岡 その2～3年後に ASTA 総会をやったんですね。

北出 1969 年です。その時の事務局は TIC の2階の会議室に事務局が置かれていた。木村寺がトップで、事務局長が井戸さんだった。長岡君も事務局員だったっけ。

長岡 僕は研修の一環で TIC の2階の事務局にちょっとだけ参加した。何だったか忘れたけど井戸さんにケションのパーに言われた。苦い思い出ですね。帝国ホテルから持田さんという人が参加されていました。

石井 ASTA でも開会式とレセプションを担当しました。人数が多くて7つくらいのホテルに分宿していたので、開会式は朝 9 時だけに始めるのに、ホテルから会場の上野の東京文化会館に時間までに集まってもらうのが僕にとって難問だった。高橋茂さんに相談したら、ほんの少し考えただけで、バスが 30 台必要だ、上野公園にバスの駐車場を予約する、渋滞に引っ掛からないように交通整理を頼む必要があるから警察に1本下げて頼みに行こう、などなど、あっという間に決めてくれた。人を動かす旅行業者のノウハウの凄さを感じま

したね。

レセプションもホテルでの分散開催になって、仕切りが難しかった。それとバックグラウンドミュージックを流していたら、音楽著作権協会の人につかまって金を払えって言われたのを覚えています。

北出 コンベンション・ソリシターのマクドネルを雇いましたけど、その時 NYC に居られたのは川井さんですか。

川井 ○○○○○○○○

石井 彼が日本に来たときは研修であちこち連れて回りました。大迫さんと話しているのを聞いて、大迫さん英語うまいなあと思いました。

北出 1972 年にコンベンション・ビューローと国際機関関係の業務をまとめて国際協力部ができました。佐久間さんがニューヨークから帰られて国際協力部長になられてのでしたか。

佐久間 いや。帰国したとき国際協力部長は空席で、僕は部長代理の辞令だったと思う。君がコンベンションの方のボスだったね。

その他

石井 何かこれは自慢できるかなというような話が合ったらお願いします。

永見 ソウル事務所にいた時、地方自治体も国際化を言う時代で、直行便を誘致している時代だった。その頃大分県が韓国でトラベルセミナーやりに来た。県知事も一緒に、今後韓国で観光宣伝をやりたいと言う。そういうことならわが事務所に人を派遣して宣伝活動したらどうですかと勧めたら、これが実現して大分県から人が派遣されるようになった。2,000 万円くらいの予算がついていた。それを知った富山県も派遣したいということで、お金のない JNTO にとって、この委託料収入はありがたかった。

北出 そのあと宮崎県からも来て一時は 3 県のスタッフが同居していたけど、宮崎県が独立事務所をつくった。これら 3 県までは JNTO が面倒見たけど、そのあとは静岡県とか沖縄県とか、他にもいろいろ韓国に独立の観光事務所ができた。永見さんが先鞭をつけられた結果です。ソウルだけでなく他の事務所も受け入れたんじゃないかな。

石井 あったかもしれない。その後自治体国際化協会というのが出来て海外事務所をあちこちに作るようになったから、そちらに県から人が出るようになって JNTO には来なくなったのかな。

永見 韓国の場合は国際線のフライト誘致とからんでいたから、観光に特化した事務所が作られていましたね。